特別講演

# 日露戦後の樺太表象

日　時：2019年10月10日（木）15：00〜16：30

場　所：神戸大学 国際文化学研究科 中会議室（A403）

講　師：坪井秀人 (国際日本文化研究センター教授)

司会・コメント：シュラトフ・ヤロスラブ（国際文化学研究科准教授）

## 内容紹介

日露戦争の結果、日本はロシアとの間で樺太を北緯50度線上で分割し、国境を画定するが、それ以後、日本の文人たちは樺太を訪れ、樺太を表象してくことになる。本講演では、国境画定に関わった地理学者の志賀重昂をはじめ、文学者の野口雨情、柳田国男の見聞をもとに小説を書いた田山花袋から北原白秋あたりまでの樺太表象を取り上げ、日本語文学がいかにして〈辺境〉を表象し創造したのかを考える。アイヌや少数民族の人々へのまなざしや、その人々から返されるまなざしのことにも触れてみたい。

## 講師略歴

名古屋大学卒業。名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。文学博士(1990年名古屋大学)。金沢美術工芸大学助教授、名古屋大学大学院文学研究科教授等を経て2014年4月より現職。

2013年第4回鮎川信夫賞、2006年第14回やまなし文学賞、1998年日本比較文学会50周年記念大賞受賞。

お問合わせ： シュラトフ・ヤロスラブ (shulatov@people.kobe-u.ac.jp )